

ピーマン・トウガラシの育て方

ピーマン・トウガラシ類は盛夏でもなり続け、6月～10月まで約5か月間は収穫出来るのでたいへん重宝します。また、各節ごとに花が咲くので収量も多く、しかも樹が大きくならないので場所を取らず、誘引も数回で済み管理が比較的楽です。



●...タネまき ▲...移植 ×...定植 ■...収穫
 ■...ピニルトンネル ●...種まき適期 ■...肥料やり

容器	株数	植え方	一回の肥料
標準プランター	3	1条	20g
発泡スチロール箱	4	2条	40g
深型菜園プランター	1	—	15g
ジャンボプランター	2	1条	40g

【肥料】
 元肥は定植時、以後20日ごとに7回追肥

【品種】
 ピーマンは「京みどり」、「京鈴」、「京波」、甘トウガラシは「伏見甘長」、「甘とう美人」、「ししとう」、パプリカは赤色の「フルーピーレッド」、「ワンダーベル」、赤トウガラシは房なりの「鷹の爪とうがらし」など。

タネまき

1月下旬～2月上旬、セルトレイに1穴3粒ずつタネをまき、加温する。発芽したら昼20℃、夜20℃に保つ。

育苗～間引き

セルトレイの中で2本に間引き、3月中旬に7.5～9cmのポリポットへ移植。7日くらいして活着したころ、ハサミで1本に間引く。高温性で15℃以下では生育がストップしてしまうので、育苗には加温が必要です。また育苗期間も3か月かかり負担が多いので、苗は購入苗をオススメします。

定植

仮支柱

苗の定植の仕方
 盛り土 肥料、水は溝へ
 2cm
 6cm

定植時、風でぐらぐらしないよう仮支柱を立て、ひもで8の字に誘引しましょう。

寒さに弱いので定植は地温が十分に温くなる5月上旬に行います。浅植えにして山型になるように植える。定植後プランターの縁と株間の溝に肥料(元肥)をやり、以後20日おきに9月末まで同じ位置に追肥します。

支柱・誘引

倒れないよう斜めにも入れる
 長さ 50～70cm
 固く縛る
 PPテープで動かない様に縛る

仮支柱を立ててなるべく10日以内に、本支柱を立てる。ピーマン・トウガラシはトマトのように大きくならないので1mほどの長さの棒で十分です。ぐらつかないようにがっちりと斜め支柱も組んで、生長に合わせて誘引してください。

整枝

①主枝
 ②側枝
 ③側枝
 側枝
 下の側枝は早めにかきとる

定植後、1本の主枝と2本の側枝を伸ばし、それより下の側枝は早めにかきとって3本仕立てにします。

肥料・水やり

ピーマン類は肥料切れと水切れが禁物です。緩効性肥料を20日おきに株周囲の溝に条溝施肥します。乾燥にも弱いので、水やりは毎日、盛夏は1日2回周囲の溝に、排水口から流れ出るまでたっぷりかけます。

Point! 生育後期は穴あけを

長期栽培なので、育成途中から鉢に根が回り通気性が悪くなります。水やりするとき水の抜けが悪いと感じたらプランターの縁沿いに、10cmおきに穴あけ棒を底まで差していきます。根に酸素が補給され同時に根が適度に切れ新しい根が生えてきます。

収穫

ピーマンは若取りが決め手
 パプリカや鷹の爪は緑から赤や黄色に着色し完熟してから収穫しますが、そのほかは、できるだけ若どりして樹に負担をかけず収穫個数を多くするのが多収の決め手です。